

るの念に乏しきは歎息に堪ざる次第なり殊に彼等は科學的知識に乏く甚しきは其の初步の考だもなく一株の植物一塊の礦物もその何の種類に屬するや又その地味の肥瘠をも識別し得ざるもの多く木綿、炭油、豆麥の直段の如きは乃公の頭腦を勞するの價値なしとて之を輕するの風なれば口には喋々法理を論じ經濟を説くことあるも只机上の空論にして實業の實問題の如き又面倒なる統計の如きには寧ろ冷淡なるもの多きが如し然るに英獨等の實業國に在ては充分に經濟上の實教育あるものを撰んで領事となし殊に英國の領事には往々躬自ら商業に従事するもの少からず而して政府は容易にその任地を變易せずして永く一所に留任せしむるが故に自然にその周圍の事情にも通じ且つ在留國の變遷をも目撃しその言行着々實利害に的中するが故に内外の實業家中に勢力を有して一身の重きを爲し以て商利の進捗に之を利用するの有様は近く横濱神戸等の實例を徴しても尙知るべきなり領事の交迭を頻繁にするの

(四)

害は文明各國の夙に認知する所にして決して地方官の交迭等と同一視すべきものにあらざるなり
希くは政府は此際大に猛省して從來の弊習を改め公使領事等の任免交迭を苟もせず須らく永留の方針を定めてその根底の教育法より此趣旨に適せしむるの覺悟を定むべきなり

世に等き戦争なく惡き平和なし

フランクリン

勞働するは人間の運命なり

ホーマー

勞力ば地と廣さを均しくし

カーライル

天と方を均しくす

講 演

鳥島と南鳥島

(於レクチュア俱樂部) 志 賀 重 昂

諸君、只今幹事より鳥島の視察談とか云ふやうな御宣告が御座いました、別段私が鳥島の視察談を申し上げる譯では御座いませぬ、今年の四月に大島へ参りました、夫れからして序に巖手縣へも遍歴(めぐり)しました、今回また鳥島及び南鳥島へ往つて其歸りに小笠原島に参つたので御座います、皆様の内には社會學の御研究を爲さるお方も御座いませうし、或は又外交、政治の事などに就て種々御研究なさるお方も御座いませうが、夫れからして又歴史上地理上の事を御研究の方もありませんから、夫等のお方の御参考までに其間に見聞致しました事を御話申し上げます。

大島の事に就きまして一應、諸君が社會學を御研究なさるならば餘程其材料になるものが此島に澤山あると云ふ事を先づ始めに申し上げやうと思ふ、諸君が社會學

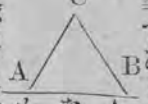
の初歩でお讀みになつた通り社會が幼稚なる時、

發達をしない時は西洋の古代の人でも、南洋諸島の土人でも阿非利加の土人でも皆同じ事で一向變りはないと云ふ事は、ドノ社會學の本にても一番初めに書いてある、大島は固より南洋の土人とか阿非利加の土人とは比較すべきものでなく大に進歩したる所である、併しながら社會學の此初歩の原則を攻究するには日本にては甚だ適當して居ると考へる、何故なれば元來島と云ふものは御承知の通り水に圍まれて居ります、扱て陸で御座いますと交通は大變便利なもので一寸皆さんが神戸へお出でになるやうな事がありました時に船はあけるけれ共船にお乗りなさるお方は先づ少なくして、陸に汽車がある以上は大概汽車に乗る、是が人情であります、大島へ参りますに船でドノ位掛るかと云ふと、先づ六時間か七時間掛れば往けるであります、而して逗子鎌倉へお出でになつたお方は御承知であります、直ぐ向ふに見える烟りを吐いて居る所の島が即ち大島であります、然るに大島へ往く者が少ないと云ふのは、矢張水を隔て、夫れだけ波濤を隔て、居るが故に往き難いからである、交通が不便であるが故にア

(五)

、云ふ島の事は自然分らぬのである、即ち此交通が不便であると云ふのが、大島には甚だ氣の毒のやうではあるが、社會學研究の材料を與へるのである。

山と島とが同じ發達を爲すものであると云ふ事は極く簡單な事であり、皆様が直ぐ御承知になるのであるらう
と思ふC
A、B、の線が海面である、此三角形になつて居るCが島である此Cの所へ往かうとするには是だけの(A、B線を指す)海を踏えて往かなければならぬ、夫故にどうしても此島へは交通が悪いのである、所て更に轉じて此A、Bを平原として見るとCの三角形は山である、山は平原に突出つて居る平原には車もあれば或は又汽車も掛つて居る所もあらうし、道路も大變良く出来て居らうし、總て人間の往來には自由自在であるが、一度此山へ往くと云ふ事になりますれば何うしても往き難い、人間と云ふ奴は極くツルイもので、一寸外へ出るにも己れが直ぐ前にある唐紙なり障子なりが締めてある、夫れを一寸明けさへすれば直ぐに出られるのに二枚なり三枚なり先きに明いて居る所があると態々廻り道をして其處からヒョイト出る、その唐紙なり障子なりは、



箱のやうな譯で、其硝子箱の中に足利時代の物や北條時代の物或は徳川氏の初めの頃の物が這入つて居るのを諸君が珍らしく御覽になると同じやうに、當時の社會を有の儘に寫して居る、そこで大島へ往つて先づ目に着きますのは女の髻なんぞは投島田と云つて島田に眞を入れないので、極く簡單に結んで居る、是は木曾の山中へお出でになつたお方は御承知では御座いませうが、木曾の山中では皆投島田を結つて居る、夫れから又會津の山の中へ往つて見ても同じ事である、東京近傍では秩父の浦山で大島と同じに投島田を結つて居る、而して投島田は今日から四百年以前の遺物で御座います、夫れが大島に今日遺つて居る、即ち島に遺つて居るものが山に遺つて居ると云ふ事は島と山との關係が同じであると云ふ事を證して居る、夫れからモウ一つ目に着くのは女の前掛である。

婦人が締めて居る、前掛は何う云ふ風であるかと云へば簡單な者であるが斯う云ふ風に布切を縦に二つ縫ひ合せて左うして夫れを締めて居る、是は私が自分で直接に見たのでありませんが確な人からも傳へ聞きましたし、又人類學者の鳥居龍藏君にも聞きまし

位のものであるかと云へば高さは僅に五尺何寸幅が三尺である、夫れを明けるのが面倒臭くつて元から明いて居る所があれば態々迂廻して其處から出て往く、是が人情である、左う云ふやうな譯であるのに、三千尺五千尺七千尺一萬尺の大唐紙見たやうな大陸子見たやうなものが大屏風を立廻はしたやうに列つて居る所の山と云ふものに向つて、なか／＼人間がさう自由自在に往つたり歸つたりする事の出来るものではない、夫れでありますから、山は交通が不便である、交通が不便であるが故に従て有形無形共に社會の進歩が遅い、智識を交換する機會が少ないから總て山の方は進歩が遅れて居ると云ふ事は當然である、丁度島が夫れと同じである、島には海がある故に矢張り交通が悪いから始終後れを取つて居る、それでありますから山も島も社會の進歩の有様から申しますと同じ事である、其境遇が少しも違はぬ、一つは海、一つは平原から突出つて居ると云ふ丈けて理屈は同じである、而して其交通が悪いが故に山でも島でも古い物が皆遺つて居る、大島へ參りますれば總ての物、三百年前の物が多くは遺つて居る、夫れでありますから丁度上野の博物館の硝子

たが現に自分が見たと云ふ事であり、鳥居氏の謂はるるに阿波の祖谷と云ふ深山幽谷にて平氏の落人の居る所へ往きますと、矢張り縦の布切を三つ合せたのを締て居ると云ふ事である、そこで之は何であるかと云ふと昔三百年前から上流の婦人は京都邊でやつて居つて五も六も縦にきれを合せた袴を穿いて居た、宮中にも夫れが遺つて今日でも宮中できれを幾個も縦に合せた袴を穿く事があるが、即ち夫れが遺つて居るのであります、阿波の祖谷では三になつて大島には二つになつて遺つて居る、而して我々が今日東京などで見ると島との關係が違はぬと云ふ事が分る、夫れからして大島では女が五つ紋の付いた着物を着て居る、牛追ひに往くにも薪を採りに往くにも水を汲みに往くにも五つ紋の付いた着物を着て居る、尤も夫れは綺麗な紋付ではないのですが、黒い木綿の着物であります、それから帯は殆ど帯とは謂へない位な極く單純な狭い短いのを締めて居る、左うして帯止めも帯揚げもしない、是は矢張り内地の諸所の山の中へ往くと至る所何處でもコンナものを締て居る、矢張り狭くして而して薄い

又帶止めも帯揚げも用ひない、是を以て見ても山と島との關係が同じであると言ふ事が分る、夫れから先刻申しました五つ紋の所で一寸忘れましたが語り日本では昔は五つ紋の付いた着物を着けて居つたのであります、西洋風が這入つて來てから内地では今日は女でも矢張り、鐵漿を付けずに齒を白くして居りますし、又眉毛も剃らずに當り前に生やして居るが、御承知の通り今から三十年位前までは女は結婚をすれば眉毛を剃り齒を染めたものである、然るに大島に至ると西洋風の這入ると這入らざるとを問はず其婦人は始めから終まで日本の古代の通りの風を守つて居つて眉毛はチャツと生やして齒は矢張り白い齒をして其間に齒を黒く塗つたり眉毛を剃つたり左う云ふ事は知らずにズイツと今日までやつて來たのである、木曾の山中に這入ると至る所左うなので御座います、西洋風が這入ると否とに拘らず、ズイツと其儘の古風を存して居るのであります、夫れから内地にて男子が髻を生やして居るのも是は西洋風が這入つて來たからでもあります、大島では始めからズイツと構はずに西洋風が這入ると否とに拘らず、矢張髻を生やして居る、夫れであります

して昔は男子が髻を生やした事も當り前である、髻は齒を保護し或は塵埃を防禦するにも大變都合が宜しいです、夫れから醫者も左う云ふ齒などの悪い人は髻さへ生やして置けば容易に齒の弱る事はない、髻を生やせと云ふ議論を主張する者が澤山になつて近頃は半分髻を生やして居る人がある、夫れは即ち日本の昔からの風俗で、改良論でも何でもない事である、それは是は高木兼寛先生などの仰つしやるのであるが、今の婦人の締めて居るアノ廣い帯は非常に不經濟である、不經濟である上に血の循環を悪くするものである、アノ大きな廣い物を締めて居つては仕方がない、細い薄い帯を締めよと仰しやいます、乍併、只今申します通り細き薄き帯を締める事は日本の古風で別に珍しい事はない、又婦人が齒を染めるとか或は眉毛を剃ると云ふ事は宜しくない、容貌も天然の眞を失ふし、衛生にも適はないと云つて齒も白くし眉毛も剃らんやうになつたが是も矢張り昔の日本の風俗である、又近頃は婦人は衣服の前を正しくせねばならんとて袴を穿かないては宜しくないと云ふ議論が盛んになつて今日では大概婦人が袴を穿くやうになりましたけれども矢張り以前は

から日本の古代の風は大島へ行くといふと總て分る、内地の山の中へ這入つて見ると古代の風俗が分ると同様、大島に往くと能く分る、左うすると茲に不思議なる現象を見る、日本の昔の開化は何う云ふ風であるかと云ふと男子は髻も生やして居り女子は眉毛も剃らず齒も染めず左うして着物と云へば女は帯も狭く細い夫れからして髻は投島田にして居つたのであります、所が今日は社會改良々々々と云ふ聲がしまして婦人の束髪が流行します、日本中の婦人が皆束髪にして是迄の髻の結び方を廢めたならば髪結に拂ふだけの金を以て一ヶ年間で富士艦や八島艦位の船は出來ると云ふが成程左うであらうと私も思ふ、けれ共昔はソノ事をしてないで矢張り髻は投島田にして居つたのであります、投島田と云ふのは眞を入れぬ島田なんです、東京邊りて見る、内地で見る島田は眞を入れた島田です、此心を入れた島田は徳川氏の中世に東海道島田宿の女郎が結び初めたのである、夫れが流行つて來て今日の眞を入れた島田髻が出來たのであります、之は日本の昔の風俗ではないのである、左うすると束髪でも矢張り投島田と同じ事で極く昔の風俗と異つて居らぬ、左う

大島なり阿波山中で婦人が縦に縫ふたる前掛を締め又古代の風俗の通り宮中にて袴を着用する如くチャンと袴を穿いて居たのであるから著しく違つた事はない、何を考へて見ても是等の改良論者の論と違つた事はない、詰り日本の風俗は中頃から違つて來たので今日の自墮落なる風は決して昔から斯う云ふのではないのであります、贅澤な島田髻も古へは投島田即ち束髪であつたのを東海道の島田宿の女郎がア、云ふものを結び初めて左うして鏡の掛る無用なる事をしたのが流行して今日の島田髻になつたのである、夫れから袴を穿かぬやうになつたのは何うであるかと云ふにアノ振袖とか云つて袖の長い着物に裾模様を華々しく付いて居るのを着ると云ふ、贅澤なる隋弱な風が流行して袴を穿くと夫れが見えぬ、其模様を人に見せやうと云ふ所から自然袴を穿かないやうになつたのである、昔はソノものを整える必要もなかつたが故に、婦人が袴を穿いて衣服を整えたものである、若し昔の日本の風俗が本當に發達したならば今日の社會改良論者の謂ふ所と少しも違はん同じ事である、唯夫れを我々見たやうなお互ひが日本の風俗を自墮落にして左うして一種の風

と云ふものが出来て来たのを銘々が夫れを日本の風俗と思つて居るのは間違つて居る、大島へお出でになり或は山の中へお出でになれば三百年四百年前の風俗がチャンと遺つて居る、其風俗は悉く今日の社會改良論者の謂ふ事と少しも異つて居る所はない、人間が無用の事をせんやうに節儉を守つて秩序能く進歩させて往くと云ふのが社會改良論者の主張する所である、日本の古の開化が萬遍なく發達したならば今日の社會改良論と少しも違はぬのである、自分等がお互ひに斯う云ふ風俗を造つて左うして自分で良いと思つて居るのは大變間違つて居る、今の人は時を守らないで困る、時間を精確にしなければならんと云ふが、昔は寅の刻或は亥の刻に登城せよと云へば其時刻には必らず出なければならぬ、また其時刻には少しも違はずに出たのである、夫れを我々が自墮落にして時間を嚴密にしなければならんと云ふが、昔の通りにして置けば社會改良でも何でもない、夫れで済むのである、夫れから着物も相當な所で垢の着かぬのを用ひなければ可かぬと云ふが、之も昔は先輩の前なり世間なりへ出るには鬢などがバラ／＼して居ては可かぬ髪もチャンと結つて往

がなければならぬ、人の前へ出るにも殿様の前へ出るのにも又家老の前でも用人の前へでも夫れでなければ出られない位であつた、鬢の毛などを垂らして往くのは非常に失禮であつたと云ふ事である、動もすると今日の人は髻もムシヤクシヤ髪もザンバラ髪をして夫れで豪傑風だと云つて表へ出る、夫れは宜しくないから實際場等には少し始末をして順序を付けなければならんと云ふが之も西洋風でも何んでもない、髻のムシヤ／＼したのを蒙いやうに思ふのは日本古代の風俗ではないのである、夫れから又私が毎朝見て居ると私の家の老祖母が佛様に向つてお華を上げたり御膳を上げて拜んで居る、又太陽に向つてお辭儀をして居るのを見る、元來太陽は熱の元でありますから熱の原因の所に向つてお辭儀をするのと云ふ事は實に物理學上から云つたならば可笑しいが、併しながら少くとも拜んで居る間は老祖母は清淨潔白なる考を持つて居るに相違ない、これは西洋の家庭に於ても認める、西洋人が子供なり妻なりお婆さんなり自分等が朝御膳を喫べる時には必ず十字形を胸に書きて神さんに祈りを上げる、何うぞ今日一日は清き考を持たし給へと云つて祈る、之

は何ンであるかと云ふと丁度我々の老祖母が太陽を拜むのと同じ事である、然るに我々其は頭腦の一番新鮮なる時頭腦の一番明快なる時確かなる時西洋人のやる様な事もせず又老祖母のやうに太陽も拜まず、毎朝目が覺めると枕元にある新聞紙を取り一番始めに何を讀むかと云ふと彼の三面記事ですな、誰とかやらが藝者の所へ往つたの誰とかやらが姦通をしたとやら云ふ事を先づ見るのである是では何うしたつて世の中が墮落せざるを得ん譯である、老祖母が熱の發出する所の太陽に向つてお辭儀をするのは可笑しいと思ふが、兎も角も其拜む間は假令一分でも二分でも清潔なる考を持つて居るのに相違ない、又西洋人が十字形を胸に書いて家族と一緒に卓を圍んで祈つて居る間は正しい心をして居るに違ひない、是は日本と西洋と少しも違つて居ない、詰り今日の我々の風俗が悪いので何も昔からの日本の風俗は決して悪いのではなかつたのであります、是等は大島の例を以ても分かる、之はマア風俗の事でありますがモウツ社會學を御研究なさるお方の御参考までに申して置きますが、社會の進歩は何れも同じ事でありませう……大島は火山島でありまし

て、大島では火山の事を御神火と唱へ、或は御灰様と云ひ御煙様とも云ふ、火山の噴火口を御穴様と申します、而してお宮も何もないのに全山悉く宮として居つて鳥居がアチラにもコチラにも山に建て、ある左うして山の中腹より一寸以上に更に大きな鳥居を建て、山の全躰を拜んで居る、さうして御神火、御煙様、御穴様と唱へて居る、御承知でもありませんが古い歴史をお讀みになると天武天皇の天武記或は文徳天皇の文徳記仁明天皇の仁明記などに書いてありますが大島の傍に神津島と云ふ所があります。

此島は大島の火山脈の續きて此處に物忌奈命と云ふ神様が祀つてある、其頃京都から見れば實に絶海の孤島で、彼のナポレオンの流されたセントペレナ島でも今日我々が見るに變らない、此物忌奈命と云ふ無名の神様を僅か十四ヶ年の間に其位階を從五位の下から從五位上に登し正五位の下から正五位の上にと四遍も位階を進められたのである、夫れは其神様が火を賣出して怒るから何うしても之を鎮撫しなければならんアツ／＼不平を云つて噴火して仕方がないからと云ふのでフシ／＼位階を進めたのであります、あなた方が希臘

史を御覽になるとお分りになります。がヴォルカンと云ふ鍛冶屋の大將……鍛冶屋の叩く道具、何と云ひますかアノ槌見たやうな物を持つて居る神様が希臘史などの繪にありますが……此神様が穴の中に這入つて怒る時になると煙りを吐き湯氣を出す左うして石の烙けた奴を噴出して仕方がない、其時に葡萄酒を持つて行つたり或は無花果を捧げたり或は酒を献じたりして神様どうぞヴォルカンが怒らんやうにと云つて火山の前にツツナ物を奉納したと同じ事である、ヴォルカンと云ふ語を火山と云ふのはヴォルカンから此字が出たのである、それは決して笑談ではなく、實際なんです。左う云ふ譯でありますから日本で今云ふた通り絶海の孤島に祀つてある無名の神様を十四ヶ年間に四回も位階を進めたのは希臘人がヴォルカン神様のと云ふ怒たのを鎮めるのと少しも違はぬのである、是等は能く西洋の歴史に似て居る、夫れから大島の船の着く所からして離れて居る差本地と云ふ邊では人が朝挨拶する時に、何と申すかと云ふに、アサクイハッタかと云ふ、之は朝の粥を喰ひ終つたかと云ふ事である、夫れが禮になつて居る、是は何であるかと云ふに火山島であり

も旦那様と云つて敬つて居る、それで之は旦那様の如である、旦那様の林であると云つて大變尊重して居る、夫れから又先祖代々の墓を大變能く掃除をして餘程是を大切に居る、夫れは何であるかと云ふと詰り勤王心である、勤王心と云ふものは何う云ふ所から發達するかと云へば國が島であると云ふ事が大關係を持つて居る、大陸であると云ふと治亂興廢が終始あつて幾等も主權者の血統が變はる、而して又他方よりの侵略者に地面を取られる事が幾等もある、詰り主權者の家系が絶へたり、地面を奪られたり、動搖されたり色々する事があります。島である以上は其動搖を受けずして、左うして血統が決して絶へず、大陸の勢力の爲に犯さる事もなくして、地面を奪はれず、其血統と云ふものは非常に長く續いて居つて、常に尊敬を受け而して下と上との關係は密接離る可からざる關係を持つて居る、仁愛を以て下を治め、仁愛を以て上と相互に和親すると云ふ事になります、それでありますから勤王心と云ふものは島國で一番發達する、大陸では到底完全なる發達は出来ないものである、それで日本が今日までも疵も付かずに持續し又益發達

ますから水が極く僅かしかありませんから稻が出来ませんし、蓮根が出来ません、野菜が少し許り出来て麥が出来る丈けて、味噌でも鹽でも米でも何でもかんで内地从ら送るのであります、實に食物を得るに困難であるから先づ人が逢ふた時には、一番初めにアサクイハッタカ、お前は朝の粥を喰ひ終つたかと云ふのが禮になつて、今日も猶ほ其れが遣つて居るのである、外國にも同じ例があるアロシニアは極く鹽の無い阿非利加の内陸の國で、鹽は皆他國に仰がなければならん所であるが、人が逢ふと先づ第一にお前は鹽を嘗めたが、鹽を嘗めたかと云ふ、海に離れて居つて鹽がないから鹽を嘗めたかと云ふのが挨拶である、之は丁度大島のアサクイハッタカと云ふのと同じ理由である、夫れから那威の北の方へ行くとパンの粉がなくして松の木屑をパンの粉に入れて左うして夫れを一緒にパンに焼いて喫べる所がある、其處では矢張りお前は御膳を終つたかと云ふ、生計に困難をする、欠乏して居るものを尋ねて挨拶に代へる何處も皆同じ譯である、夫れから又大島には旦那様と云ふものがある、之は五百年も六百年も前に大島へ漂流した其中の頭を今日

すると云ふ事は國の大歴史であります、是れなどは此日本の國が今日迄外國に犯されずに居つたと云ふ事も、一つは島國のお蔭である、彼の元寇の時でも若し日本が島國でなくして、大陸にあつたならば、陸軍が來たであらう、忽必烈の大陸軍がやつて來た以上はナカノ容易な事ではなかつたが、幸に日本が島國であるから來たのは元の海軍であつた、其時丁度神風即ち島國には有り勝ちの海嘯が起つて、左うして彼等の船が大概覆つて十萬の大軍生きて歸る者僅に三人、モツトあつたかも知れんが、何んでも之れは構はん兎に角左う云ふ事である、其後モウ一遍日本を征伐しやうと云ふ議論も元に起つたのであるが日本を攻めるには矢張又海軍でなければならん、左うすると又暴風雨が起り海嘯が起り或は波濤の爲に船を覆へさるゝと云ふやうな虞れがある故に一度限りで來なかつたのである、其れ共、若し地續きであつて御覽なさい、又來る、又來る、左うすると日本の陸地が變化して居るかも知れんのであるが、幸に今日まで疵も付かずに外國からも犯されずに持續して來たのは島國のお蔭である、西洋にも是に似た事がある、ボルチルツ海のポロンホルムと

云ふ島之は小國の丁秣に屬して居る小さな島であるが
 瑞典の大軍が來て之を占領した。左うして耶蘇昇天日
 の晩に瑞典の大軍が酒を飲んで寝て居る時に島の者が
 武器を携へて奮ひ起つて瑞典の大軍を悉く殺して仕舞
 った。其時に十二人丈け敗報を齎して本國へ歸つた、
 夫れは何であるかと云ふと兵營の外に居つた爲に命を
 全ふして本國へ歸る事が出來たのである。之は千六百
 年頃の歴史にある、是より先に伊太利のシ、リ島が
 佛蘭西に占領された事がある、其時に佛蘭西の大軍が
 耶蘇昇天日の晩に酒宴を催して居る處へシ、リ島の者
 が押寄せて往つて佛蘭西軍を壓殺にした例があるが、
 ホロンヘルムの者が夫れを學んで瑞典の兵を亡したの
 で、詰り數萬の軍生きて歸るは僅に十二人、島國には
 何うしても左う云ふやうな例があるので強ち日本許り
 ではない、只今申しました大島の且那樣と云ふのは何
 んであるかと云へば、大島の人を始めて引張つて來た
 人で其人が仁愛を以て夫等の人を懐け左うして又引張
 られて來た人も能く其且那樣を敬ひ、相互ひに仁愛を
 以て交り、相互に愛し左うして永い間血統も絶へずに
 チヤンと傳はつて居るから、只且那樣々々々と云つて

きな石や或は土が皆、下の方へ墜ちて仕舞つたのであ
 るから、如何に其噴火の慘酷なるかと云ふ事が夫れを
 以て見ても分る、世界の歴史にもある通り、何處の火
 山が破裂し爆發しても必ず人畜が幾分か残つて居る、
 昔にては彼の有名のボンベいの破裂でも、又今年西印
 度マルチニツク島の破裂でも、其慘酷なる事は皆人の
 知る所であるが、夫れでも幾分か人は遁れることが
 出來たのである、併しながら鳥島にては百二十五の人
 が居たのであるが一人として遁れた者がない、人間の
 みならず犬であらうが猫であらうが鶏であらうが牛で
 あらうが……牛の骨が少し許り残つて居たとか云ふ
 が、私は見ませんでしたたが尻尾とか骨だとか云つて
 大變議論があつたが夫れが残つて居る、豚でも牛でも
 皆跡形がない、牛が三十九頭豚が九十幾頭居りました
 のが少しも其影がないのであります、勿論人間が何處
 に居たのか家が何處に在つたのか少しも分らん、只モ
 ウ一面に大小の石が數へたら何億と云ふ石が瀧のやう
 に流れて居るから其凄しい慘酷なる爆發と云ふ事は之
 を以て見ても分る是等の石を掘つて死骸なり家屋なり
 を掘出さうと云ふ事はナカ／＼出來ない、それは何千

大島の人は夫れを大變尊敬し愛慕して居る、自分の家
 族の隊長見たやうに思つて居るのは、恰も勤王心と云
 ふものと同じである、今日日本の勤王心の發達して居
 るのは、之れと同じやうである、以上種々申上げまし
 た如くでありますから、大島は社會學を御研究なさる
 方方には斯う云ふ事を種々お調になりましたら、隨分
 材料になるものは幾等もあらうと思ひます。

夫れから大島からズツと離れて鳥島が御座ります、是
 は御承知の此間破裂した島でありますが、チヨツキリ
 圓いと云ふ事は出來ないが殆ど圓い島である、私は十
 六年前にも參つた事が御座いますか、其當時と破裂し
 た今日とは大變模樣が違つて居ります、前から此鳥島
 は船乗は誰でも知つて居る島で彼等は三ツ子島と呼ん
 だのである、何故三ツ子島と呼んだかと云ふと火山が
 斯う三つあつて眞ん中が一番高い、斯う云ふやうに
 なつて居るから三ツ子島と稱して居つた、左うして中
 の山が一番高かつたのである、この間參りました時に第
 一に感じたのは、此眞ん中の山が少し残つて居る許り
 で、殆どなくなつて仕舞つた、海面からして一千尺も
 ある眞中の山が無くなつたのであるから、是丈けの大

人と云ふ人が長い間掛つたら掘出せるかも知れんが、
 何千人と云ふ人が往かない以上は到底一時に掘出すと
 云ふ事は難い事で先づ大きな事を申しますれば、今迄
 に人間の死んだとしては殆ど記録にない凄しい慘酷な
 死様をしたものと思ふ、誠に氣の毒に堪へん次第であ
 ります、此鳥島の破裂に就ては新聞に委しい記事が出
 ましたから大概にして置いて次に南鳥島の方を申上げ
 ます。

爆裂した鳥島の方は、汽船の速力を早めて往けば二十四
 時間で往けますが、南鳥島の方はドンナに急いても四
 晝夜と六時間は掛りますから餘程離れて居る、能く世
 間では鳥島々と云ふから一方の鳥島とくつ付いて居
 るやうに思ふかも知れませんが、決してさうでない、
 爆裂した鳥島は鳥が多く住んで居る所から鳥島と名を
 附けたのである、南の方の鳥島も矢張り鳥が住んで居
 る、故に南鳥島と名けた丈けの事であつて方角も違ひ
 鳥島とは餘程距つて居る、此南鳥島は何うかと云ふと
 近い鳥島とはまるで違ふ、爆烈した鳥島は火山島であ
 りますから、山がズツと險しくなつて居りますが、南
 鳥島はモウ實に／＼何と申して宜いか際へ行かなけれ

ば見えない位の平たい島であつて、やうな形ちで、遠くから見ると殆



此袴の腰板のど高低がない

上陸して能く〳〵實測して見ると一番高い所が海面上三十三尺でありまして、低い所が海面上十五尺外ない島であります、海面上三十三尺と云へば實に僅なものです、殆ど高低もない位で、之は近い鳥島とは根本的に違ひます。

近い鳥島は火山島であります、之は全島悉く珊瑚礁で出来て居る、白い珊瑚礁が集り集つて其處へ往つて見ても此白墨の堅いやうなもので出来上つて居る、其上に椰子の樹が生へて居る、夫れから煙草の樹と申して之は灌木であります、葉の香が煙草に似て居るから、島の者が煙草の樹と云つて居るのであります、又獨活の木、斯う三つある、草は五つ外種類がない、鳥の形は近い鳥島とはまるて違ふ、即ち一哩つゝの三角形になつて居つてクルリ廻つた處で日本の一里八町位しかない、實に萬項の大洋中に周廻只だ一里八町の島であるから本當に絶海の孤島である、夫れで此處へ來て何をするかと云へば、日本の人が只今二十九人來て居つて鳥を捕へて居る。所が私共と一緒に三人戻つて

來ましたから、今では二十六人丈け居る、それで鳥を捕へて其羽を横濱へ持つて來て、外國へ輸出する、其羽は婦人のボンネットの飾りにするので、大變利益があります、一年には一萬圓位の収入がありますから、それで皆鳥を捕る、其外に動物は何うかと云ふに獸類は居りまん、其の代り蟻と蠅とやもりと蜥蜴が居る、殊にやもりと蜥蜴は澤山居りますが、之は害も何も致しません、決して人に悪い毒を與へる事もありませんが、テントの中へ這入つて來るのには弱る、カンパス即ち麻の厚布の上にプラシマを掛けて寝て居ると丁度猫が溫所へ這入り込むやうに人のからだの、腹の下や何かの温い所へやもりと蜥蜴が澤山這入つて來る迎も寝られませんが、私は幸にて寝入つて仕舞つたが同行者の中には夜の十二時頃から睡られなかつたと云ふ事でありまして、假令害をしない迄も餘り好い心持ではない。

扱てコンチ周廻僅か一里八町と云ふやうな小さな絶海の孤島に向つて、亞米利加のロイズヒルと云ふ人が此所有權を争つて、左うして華聖頓の政府と日本の政府と掛合ひになつて、日本の軍艦笠置が先きに、後に高

千穂が行き、又亞米利加からは、シェリヤワーレンと云ふ船に船長のロイズヒルと云ふが乗つて、掛合ひに來て取らうと云ふ事になつて、之が一つの問題になりましたから、此事を一寸御参考迄に申し上げます。

マダ私が外務省に居つた時、明治三十一年の夏で御座りました、近い鳥島を持つて居る玉置半右衛門と云ふ人の紹介で、水谷新六と云ふ人で見えました、其人が南鳥島を發見したが故に、日本政府の所有にしたい、又自分が其處で鳥を捕りたいと云ふやうな事で、私の宅へも來て色々談話がありました、私も極く賛成をした左うして之は東京府の所轄であると云ふ事で、其時の東京府知事は肥塚龍君であつたが、之は日本東京府の所轄であると云ふ事を肥塚君が官報にて告示されたのである、それは明治三十一年であつたが、今日其南鳥島に何やら問題が起らうとは其當時夢にも氣が付かなかつたのである、是が何う云ふ譯で段々斯うなつて來たかと申しますと歐羅巴に於ては人間も殖え、夫れからして資本も殖へて仕方がないからして、内に於ては貧富の懸隔が甚しくなつて、左うして不平の餘り社會黨は起り、虛無黨は起る、共產黨が起り無政府黨が起

つて、何うしても是は社會を根本から破壊しなければならんと云ふので、着々として是を實行して居る、或は皇帝を暗殺するとか或は大臣を暗殺するとか、大統領を暗殺するとか、若くば外の國へ逆行つて皇后様を暗殺するとか無法の事をやる、左うして社會を根底から覆さうとする即ち貧富の懸隔が烈しくなつて來たから、左う云ふ事になつて來た、ソコで今日は何うかと云ふと坊さんも慈善家も經濟家も政治家も社會學者も皆考へて居る、社會の人間と云ふものが一方に離婚が烈しくなつたり、或はストライキ見たやうなものが盛んになり、夫れから窃盜も殖え、強盜も殖え、又は以上の如き社會黨だの虛無黨だの共產黨だの無政府黨だのが、非常に發達して來たのは、詰り御膳を喰べる道がないからで、西洋の言葉で申せばパンを得る道が乏しくなつて來たから、斯う云ふ事になつて來たのである、夫故に是は大にパンを喰はしめる方法を講じなければならん、慈善であるとか寄附をするとか云ふ事は宜い事には違ひないが、夫れはパンの一寸通れの事であつて、焼石に水を注ぐやうなものであるから、到底慈善と云ふ事では可かぬから、大にパンを得せしめる

には何うしても抵抗力の一番弱い所に向つて此餘つて居る人間と餘つて居る資本とを吐き出して、仕舞へと云ふ議論が起つてソコで止むを得ざる結果として殖民政略を今日行つて居るのである。(次號完結)



戦争は人間社會に於ける最も悲惨なる行爲にして文明史中の最も哀しむ可く且又最も野蠻なる行爲なり吾人は戦争全廢の目的を遂行せんことを希望する者なり

勞働は神聖なり怠惰は不正なり何等の職業にも從事せずして社會の改良に裨補せざる者は之を社會進歩の敵と稱するも可なりかるが故に吾人は彼等を矯正するか然らずんば之を社會外に放逐せざる可らず

吾人は毎朝起出づる時若しくは靜に寢室に入るの時須らく先づ沈思默考す可きなり何となれば熟考は安慰と進歩を得るに最も適當なる方法なればなり

論 說

倫理と宗教との衝突

(井上哲次郎氏の「倫理と宗教との關係」を讀みて)

二 並 長

倫理なる者は人の一日も離るべからざるものなりと雖も、各個人が之を實行するの狀況に於ては、必しも等しからず、習慣上より之を實踐する者あり、利己主義より之を墨守する者あり、或は他に深き意味を倫理に發見して之を躬行する者あり。故に若し周圍の、状態一變する時は人倫も亦た擾亂せられ、沈思默考して深く天下の道理を達觀する事なれば、倫理も亦輕々に看過せられ、利己主義は倫理其物に價値を置かざるが故に、利己主義より出でたる道德實行者は復た信賴するに足らず、畢竟其實行する所は偽善に過ぎず。事實に此の如くなる時は倫理界の闇黒は甚だ察すべきものあるなり。現今我邦に於て道德の大に紛亂せるを慨する者多く又倫理學を建設して此急を救はんとする者あ

るは、即ち我倫理界に闇黒の存するが故にあらざるや。井上博士が「倫理と宗教との關係」を著はす所以も亦之が爲なるべし、然り而して倫理は形而下に於ける人間の行爲を規定する者なりと雖ども、深く其根源に遡りて之を探求する時は、其本源は形而上界に達するを見るなり。是れ博士が單に倫理のみを云々せずして倫理と宗教とを合せ論じたる故ならん。

更らに吾人は古來宗教の理論家は倫理てふとを如何に觀察したるやを考ふるに、餘り明瞭なる思想なかりしが如し、素より余は彼等が倫理思想なかりしと云ふにあらざる、倫理の重んずべく、是に缺くる所ありては眞の宗教者にあらざるを切言せる者なることを知るなり、然れども彼等は宗教の教理を説明すれば倫理は自ら明瞭となるべしと思惟したるなり。彼等は唯だ倫理の活動し、之を實行し得るの力は宗教上の信仰によりてのみ得らるべきものとすに止りて、宗教と倫理との關係を深く研究するものは無かりしが如し。然れども宗教と倫理との關係は決して自明のものにあらず、「道德は同類相互の關係に起因するもの」なれども宗教は然らず、之を平易に云へば宗教とは神と人との關係

と思ひます。之を要するに國民の品位性格を高めるには何を以てすると言へば詰り教育である、教育といふとは詰り躰格と精神を發育するより外なく、躰格を發育するには澤山滋養を取つて十分運動して血液に化してしまふ、精神を教育するには善良なる書物を讀み善良なる教を聽いて同時に直ちに之を實行して行くといふことで、それが消化せられて初めて學者的にならずして社會の人となることが出来る、是より外に國家を拯ふ道は無いのである。慶應義塾設立の趣意、故福澤先生の考のある所も國民の品位を高めるといふ事に在つたのは疑ない。

(完)

鳥島と南鳥島

(承前)

(於レクチュラ俱樂部) 志 賀 重 昂

夫故に抵抗力の弱い國、即ち國民の智識の低い所或は國民の元氣の無い所又は滅亡せんとする所或は貧弱なる國を占領するのである、弱い國を取るのには悪い事不徳義と云ふ事は勿論承知して居るのであるが併し昔に腹は代られん、己れの國の何うであるかを顧れば國民

良いのがあるが氣候の適せんと云ふが一番彼等の困る弱點である、故に一番遅く迄手を着けなかつたが、此も遂に最近十年間に於て各國で競つて之を占領した、英吉利、獨逸、佛蘭西は固より西班牙でも葡萄牙でも伊太利でも極く小さな白耳義に至るまでアフリカを占領した、コンゴと云ふ所は白耳義の百倍もあるが其コンゴまでも白耳義が占領するやうな有様で、斯くアフリカは悉く歐羅巴各國の爲に占領されて今日では砂漠の一杯と雖も西洋人の有に歸せざる處はない、アフリカの大體を段々亡して了つてマダガスカルと云ふ島までも佛蘭西が奪つて仕舞つた、今残つて居る所は我が亞細亞洲だけである、其亞細亞洲も北の方三分の二は露西亞が取つて仕舞つて、中央亞細亞も西伯利亞も皆露領である、真中の印度は御承知の通り英吉利が取り、カムボジアは之を文久二年に交趾は其後に又安南帝國は明治十七年に佛蘭西が之を亡して、支那の西南なる雲南貴州の方面なる無限の礦山を採掘して左うして之を西洋の方へ輸出しやうとする計畫を佛蘭西がした、之を開いて左うされちや堪らんと云ふので英吉利が明治十八年に緬甸を亡して、左うして此雲南貴州の物産

の或者は社會を根底から覆さうと云ふ程人口は殖えて来る、即ち人も資本も餘つて仕方がないから詰り社會黨とか無政府黨虚無黨とか共產黨とか云ふものが起るのである、夫故に止むを得ざる結果として抵抗力の弱い國を奪ふと云ふのが今日の歐羅巴の有様で是が即ち殖民政略の行はるゝ所以である、夫れも一朝一夕に起つたのでなく古くから左う云ふ事をやつて居るのであります、先づ南北亞米利加は歐羅巴人が悉く之を占領して左うして第二の歐羅巴を造つて或は合衆國と云ひ加奈陀と云ひブラヂルとか秘露とか智利とか色々國を造つた所が南北亞米利加の遺利が薄くなつたから今度は南洋の濠太利と云ふ日本の甘倍もある所を占領して茲にクヰンズランドとかニウサウスウエルズとか或はグイクトリヤとか或は南オーストリアとか云ふ國を造つて左うして憲法を制定し内閣の交迭杯もあり立派な第三の歐羅巴が濠太利に出來た、次にアフリカは何うかと云ふと氣候が甚だ宜しくない、躰軀にどうしても適せん所からして一番歐羅巴には近いが是には手を附けなかつた、第一アフリカは氣候が悪い砂漠もあるし土人は猛惡で又獸物も猛惡なるものが居る港には

を佛蘭西の新領分よりもズツト近く、新嘉坡を廻らず即ちマラツカ海峽を廻らずに濟むやうにと云つて緬甸を占領したのである、ソコでもう緬甸を亡したから亞細亞洲も大概亡されました、夫れで残つて居る所は波斯が此處に一つ、暹羅が此間に一つ、夫れから朝鮮に支那及び我が日本と是を分けが亞細亞洲に獨立して居る、それで波斯は何うして獨立して居るか云ふと此方は露西亞の領分であつて一方には英吉利の保護國がある、夫れで若しも英吉利に波斯の内地へ迄鐵道を掛ける特權を許さうとすると露西亞の方へも煙草の專賣權を許さなければならん、夫れからしてこちらの裏海の方に露西亞に軍港を割いてやらうとすると英吉利に向いては波斯灣の方をお前に割いてやると云ふやうな譯で詰り兩方の間に旨く挟まつて居る英と露の力は何方が強いとか何方が弱いと云ひますが、先づ歐羅巴に於ける兩國の勢力は同様にて恰も西の大關東の大關と云ふやうな具合なれば、波斯は其平均せる力の間にブラ／＼國命を維持して居るのである、夫れでありますから本當の獨立ではなくして消極的の獨立である、暹羅は何うかと云ふに前申した通りにカンボジアとか安南

帝國を佛蘭西が取り緬甸印度は英吉利が取つて其間に暹羅が挟つて居つて旨く、兩方の御機嫌を取りあへつたか遣つて維持して居るのであるが、少し何方かの御機嫌を失ふとやられる明治二十六年に國の三分の一を佛蘭西に取られました、又チャンタブーンと云ふ港は佛蘭西が軍港にして居つた、是を先年稻垣萬次郎氏が暹羅と條約を結ぶ時に日本の開港場にすると云ふ事、其條約草案が或る雜誌に出ましたから、私も見ました、私は是は到底出來得可からざる事である、若し此チャンタブーンの開港が出來たならば私は東京専門學校に於て虚偽の講演を爲したる其責を引いて辭職すると云つて大言壯語を致しましたが、其大言壯語をした通りに果して出來なかつたから私も幸に辭職せず済みました、到底之は出來るものではない、昨日新聞で見ると佛蘭西が此處丈けは返して其代りカンボウアの近傍のパスツクとメーコン河の六哩はズット佛蘭西が取るさうですから、左うすると暹羅は三分の一餘は取られて仕舞つたから氣息奄々として居る、夫れから朝鮮は何うであるかと云ふと北の方に露西亞、東には日本があり、南方に英吉利があつて蛙と蛙と蛇

斯う云ふ好い國を支那人と云ふ劣等なる一人種だけに任して置くのは抑々夫れは天命でない、天命と云ふものは優等の人種が劣等の人種を能く導いて左うして遂に優等の人種が仁恵を施して劣等なる人種を開發させるのが天命である、夫れが天命である以上は何うしても優等なる人種が劣等なる人種を占有するのが當り前である、四千年の歴史は何うであるか優等なる人種は必ず劣等なる人種に打勝て往くではないか、今日支那の有様は何であるか政治は亂れ人民は腐敗して居る、仕方がない、速に斯う云ふ國を亡して其上に新たな立派な組織を造るのが天命であると思ふ、夫れであるのに自分等が斯様な事を言へば皆肩を聳かしてソナチ事を言ふなと云つて攻撃する者があるが夫れは偽君子である併しながら拙者は偽善を云はん、歴史は正しい、四千年來の歴史は何うであるか優等なる人種は劣等なる人種を占有すると云ふ事實を明に示して居るではないか、而して外交官が人の國を取ると云ふのは政治上の盜賊のやうであるけれ共拙者は盜賊とは思はんが假に一步を譲つて拙者は盜賊と云はれても構はん、唯天命は左うであらうと思ふ、如何となれば亞細亞でも亞米

との睨合の間に獨立して居る、支那は何うであるかと云ふと、日本と英吉利の同盟と佛蘭西と露西亞との同盟とが恰度力が平均して居るから其間にブラ／＼して居る譯である、故に皆本當に自分の力で獨立して居るのではありませずして、他國の睨合の力が平均して居る間に獨立して居るので、外の國のお蔭で獨立して居る事が出来るのである、左うすると亞細亞洲に於ても立派に獨立して居るのは我が日本國丈けである、其外は皆他國の力で獨立して居るのであります。西洋人は何うであるかと云ふと南北亞米利加には第二の歐羅巴を造り、濠太利に第三の歐羅巴を造り、阿非利加も悉く占領し、亞細亞も殆ど取つて仕舞つて残す處は僅である、是も早晚何うかなる必ず己れの有に歸するであらうと西洋人自身は信用して居る、ヤングハスバンドと云ふ人、是は英吉利の代議士で元印度の陸軍の參謀であるが此人がフォルトナイトリイ雜誌に向つて非常に長い論文を出した、支那と云ふ國は殆ど歐羅巴の大陸と同じやうな面積を持つて居る、山河の形勢と云ひ殆ど大陸に似て居る、夫れで氣候は好し誠に良い國である左うして物産はと云へば物産も澤山ある

利加でも歐羅巴人が往つて治めて居る所を見ると土地は開けて政治であらうが衛生であらうが道徳であらうが總て進歩して居るのが明かな證據である今支那へ行つて見ても分かる歐羅巴人が治める居留地は道路は廣く病院はあり赤十字社があり巡査は居り泥棒は居ない役人は賄賂を取らん實に正しいものであるが一度六呎なり七呎なり居留地の外、即ち内地の人間の居る所へ行つて見れば道路は壊れて居るしベストは流行る、赤痢は流行つて居る、左うして藥を盛る醫者は下らぬ者である、役人は賄賂を取つて居るし、仕方がない、斯る劣等なる人種は速に優等なる人種が之を占有して其上に新たな組織を造り劣等なる人種を導くのが天命であつて亦世界の進歩する所以である、拙者は偽君子ではない、偽君子とは違ふから自分の思ふ事は謂はずに居ない、腹の底を言ふのであると云つて非常に長い論文を書いて居る、是は餘程西洋人の眞面目を吐露して居る、であるから支那の將來は後には何うなるか分らん詰り世界は西洋人が殖民政略の爲に使用する考て居る、此論文から見ても近い將來の事許りを考へて居らん、遠き未來の事までもチャンと考へて居る、モウ南

北亞米利加も濠太利も阿非利加も、亞細亞も半ば以上を取つて殘る所は支那等であるが其支那の處分が出来た後は何うするか、陸は限られて居る、人間はドシドシ繁殖する、夫れより以上は何うしても世界の四分の三を占めて居る、海洋を開拓するより外仕方がない、即ち海を開拓して人口の繁殖して往くの處分しなければならんと云ふ議論が今日流行して來たのである、夫れでありますから四五年来歐羅巴に於て驚く可き長足の進歩發達したのは何であるかと云へば即ち海洋學である、左うして實地に於ては何をして居るかと云ふと列國が是まで極めて冷淡であつた水産即ち海から鳥を捕る事、鯨を捕る事、鱈を捕る事總ての魚を捕る事、即ち水産に關係した事を熱心にやるやうに成りました、左うして最近一年間に何う云ふ事があつたかと云へば今年の三月から五月迄露西亞の皇室が主催になつて露西亞の古い都モスコに於て萬國水産博覽會を開設し今年九月から十一月迄埃太利の政府が主催になつて國都維納府に於て萬國水産博覽會が開設になり亞米利加に於ても萬國水産博覽會が開かれた、而して今年獨逸が水産博物館を開き尙同皇帝は内訓を傳へられ

た、其趣意獨逸の船舶の行く限りは世界に於て水産を獎勵して起すべしと云ふのである、斯の如く列國が水産を獎勵し海洋を開拓しやうと云ふ機運が向いて來たのは前にも申します如く人間は殖える地面は限られて居るから何うしても海洋を開拓しやうと云ふ趨勢になつて來たのであります、日本などでも人口の多い所は山の頂上までも開墾して居る、假令ば廣島縣岡山縣などであるが此邊は隨分人口が多いので布哇などへも澤山出稼ぎに往くのであるが斯の如き處にては海洋を田地の如くに見做し出來得る限りの事をやつて居る、即ち廣島縣の如きは三百年も前から海を田地の如くに思つて種々の殖産をやつて居る、即ち濱邊に蠣を養殖して之を恰も農産物を收穫するやうに心得て居る、人口が多くなつて來れば何うしてもさうしなければならん又岡山では四十年前から「はいがひ」と云ふ貝を養殖して居る、夫れから九州の一番人口の多い有明などの沿岸なる濱邊に於ても「しび」を養殖して居る、又江戸即ち東京に於ても海面に「しび」を建て、夫れに依つて海苔を採つて居る、海苔は外でも採るが東京では盛んに「しび」を建つて海面から農産物の如く一定の收穫

を取る、魚を漁るにしても一定の收穫は取れるとしても豫算が立たん、尤も農産物でも暴風雨或は洪水などの憂もありませんから豫算は立たんと云へば云はれませんが、夫等は臨時の事であつて大概一反歩からは幾らの收穫があると云ふ事は極めて居る、左う云ふ具合に日本でも人口多き處にては海洋を田地の如く利用して居ります、西洋でも同じ事で世界中皆海から遺利を收むる事に努めて居る、而して海洋を開拓するに就ては是非此處彼處に飛石の如きステーションを置くの必要が起る、鯨を捕らうが或は鱈を捕らうが船の中に於て之を鹽漬にするとか脂漬にする事は出來ない、どうしても彼處こちらの島へ船を着けて其處で色々其魚の始末をしなければならん、夫故に南鳥島の如き周廻一里八町しかない豆粒見やうな絶海の孤島を何でソクナに争ふかと云ふに、今日こそ役に立たんやうなものであるが、之が後になると大變役に立つのである、例へば江戸幕府が瓦解して諸侯が皆國へ歸り侍が引上げる時に諸方の地面が非常に安くなつた、夫れを一度に買つて置いた者が後で大變利益を得た、夫れと同じで世界列國で海洋を開拓する時代が來掛つて居るので

ありますから例令豆粒見やうな島でも今日に於て取つて置けば後に至つて非常の利益になる、夫れでソクナに騒立つて南鳥島の問題が起つたのであります、僅か一里八町の飛石でもなかく、他へ渡す事は出來ません、元來亞米利加が之を取らうとしたのは何う云ふ譯かと云ふに、歐羅巴は此處でせう、亞米利加は斯う云ふ形をして居る(と一々地圖を指して)此の處に落機山がある、斯う云ふやうに大西洋岸の諸川が歐羅巴に向つて口を開いて何うぞお這入り下さい、何うぞお這入り下さいと云はぬばかりの地形になつて居る、夫れで亞米利加の發見以後或は瑞典或は獨逸或は英吉利、或は和蘭或は佛蘭西人が北太西岸に移殖をしてソコで御承知の通り太西洋岸に十三州が出來たのである、然る所が此の十三州の東は太西洋で西はアレガニ山脈で限られて居りますから丁度十三州は押へられるやうになつて居る、其後瑞典人の殖民地も和蘭の領分も悉く英吉利が奪つて仕舞つて其後は英吉利が壓制を加へて國民に向つて代議士を選出することなしに無暗に國王が重い税を掛けたが故に此十三州の者が奮ひ起つて英吉利に抵抗した、それでは只今申す通り一方は海、一方は

山で十三州は斯う云ふ所に挾つて居つたが故に聯合が容易に出来たのである、是が當り前なればナカ／＼聯合は出来ぬ譯であるが地形の然らしむる所で丁度此海と山との間に十三州が挾まつて居つたが故に極く聯合がし易い、殊に英吉利は強い、強い者に向ふには弱い者は是非聯合をしなければならぬ、亞米利加は地形の原因と強い者に弱い者が向ふのであるから旨く聯合が出来て左して英吉利に向つて七年の間苦戦をして遂に獨立して亞米利加合衆國と云ふものを造つたのであります、左うして其頃人口は三百萬あつたが獨立戦争後一ぱいになつたから遂にアレガニー山を踰えて這入り込まうとした、此山が又人間の往來には大變都合能く出来て居る山である、即ち谷が幾個もあつて自由に出入の出来るやうになつて居る、而して山を越えると真中にはミスシツピーと云ふ世界屈指の大河が流れて居る、此ミスシツピーの平原を行くと所謂沃野千里の平原で此處に大農業を起し夫れから又牧畜農業を起した、而して亞米利加の富が此處から出たる事は諸君も御承知の事であらう、大農業も儲からうが牧畜農業の豪く儲つたのは何んであるかと云ふと玉蜀黍を四斤喫

べさせると豚の肉が一斤殖えると云ふ割合である玉蜀黍は極く高く見積つて一斤一錢で豚の肉は極く安く見積つても一斤八錢、左うすると四錢のものが八錢になるのであるから丁度倍儲かる譯である、夫れに玉蜀黍で運搬するのと豚の肉にして運ぶのとでは運賃も四分の一で済む譯である一寸値打は四倍であるから牧畜農業は非常に儲かるのであります、亞米利加は玉蜀黍を以て國を建つて居るので玉蜀黍の事をコルン即ち穀と云ふ、日本では米を穀と云ひ米屋の事を穀屋と云つて米價の高低の事を穀が少し高くなつたとか穀が少し安くなつたと云ふ、而して豆を賣る所は豆屋と云つて穀屋とは云はない、獨逸では裸麥が一番穫れるから裸麥を穀と云ふ、米國が牧畜農業と大農業を起して段々西の方へ西の方へと漸んで來た亞米利加の言葉でウエストウエストと云ふ、所が段々ミスシツピーの平原を横斷して往く中に落機大山脈に突當つた、幸に落機山のこちらのカルフォルニヤに於て金礦を發見して誰も彼も金を掘りに來ると云ふ譯で、金は段々少なくなつたが氣候の好い爲めに果物が能く出来る、穀物も能く出来るので金掘に往つた者が牧畜と農業を營むやうにな

つた、扱て往つて見ると地面も好し氣候も好いと云ふので追々人が集つて太平洋岸に洲が出来て是等の人の力で遂に落機山に馬車鐵道を掛け或は瀛車を掛けて遂には太平洋から大西洋に通ずる瀛車が出来た、茲に至つて歐羅巴より亞米利加に西漸せしが太平洋まで進んで來たのである、之は無形の力であるから太平洋まで達した所が波の爲に遮斷される氣遣ひはない、即ち西漸の力は千八百八年の頃に至つて布哇を開拓し次でサモアを開發した、夫れから千八百五十三年に太平洋の極東の日本の浦賀へ來て日本が門を締めて居つたのを亞米利加が門を控む開けて其處へ向つて歐羅巴の西漸の力が這入つて來て日本が今日斯様に進歩したと云ふ譯である、斯の如く西漸の力は遂に日本を開發し其後亞米利加にては彼の北西部のアラスカを露國より買取つて以來追々太平洋岸も發達し布哇も合併し、夫から西班牙との戦争の結果南島島のグアムも占領し、次でフィリピン群島も取つて仕舞つたのである、斯の如く亞米利加は自分の領分で北太平洋を圍んで仕舞つたと云ふ次第である、彼のレバブリカン黨の議論或は上院議員が公然發表したる語氣を以て見るも、若くは紐育

のトリビュン新聞の云ふ所を見ても亞米利加は北太平洋を以て自國の湖水即ち池にすると云ふ意見であると云ふことは明白である、左ればこそ其池の中にある小さな飛石は皆之を占有して仕舞つたのである即ちミットウエード、ウエイクと云ふ如き紛々たる小島までも池中の飛石と見做して皆占有したのであつて、其ウエーシットウエードに近き處の南島島も亦遂に亞米利加が指を染める譯になつたのである、即ち亞米利加の西漸の力が漸く迫つて來たと云ふとは明である、要するに一は西洋人が將來海洋を開拓するより外仕方がないと云ふ宇内の趨勢に搗へ、加へて、米國西漸の勢力の結果として南島島に手を伸したと云ふ譯である、然るに南島島は西班牙の領分や布哇とは違つて日本と云ふ一種の勢力を有する所の國が其以前より指を染めて居つた處であるから、遂に日米兩國の間に南島島問題を生じた譯である、而して將來海洋を開拓するに就ては前に申した通り飛石を作らなければならぬと同時に大いに海底電線を延長しなければならぬと云ふ列國の趨勢になつて居る、それで加奈陀より濠洲に通ずる海底電線は最早本年十二月中に出來上るでありませう、

夫から亞米利加から布哇グアムを通つてフキリツピンに到る海底電線を掛けて居つて、さうして布哇までは今年中に落成して夫から來年七月四日即ち獨立祭までにフキリツピンまで竣工すると云ふ豫定になつて居る、夫に就ては矢張りステーション即ち仲繼所を諸方に作つて置かなければならぬ、彼のミットウエード及びウエーテは所謂其仲繼所になるのであつて、而して又南島も仲繼所たるべしと考へたる所よりして此の問題の火の手を高めた譯である、さて海底電線は以上述べた通りであるが無線電線も亦二百哩の間は電池さへ置けば自由に通ずるやうになつた、益々海の中に在る豆粒見たやうな島の必要を生じて來たと云ふ譯である、夫故に僅か一里八町しかない豆粒見たやうな孤島に向つて軍艦を出すと云ふやうな騒ぎになつたのは世界の大勢上決して怪むに足らぬのである

(未完)

論 說

新式の刑法學

義塾大學部講師 淺見倫太郎

○刑法改正の必要は今日の輿論なり。新式の刑法上を顧みずして刑法改正を唱ふるは迂濶なり。刑法學は法律學の一科として之を見れば刑罰の法律關係を分拆して之を演繹するものなり。更に社會學の一科として之を論ずれば犯罪にも社會的性質あり。刑罰にも社會的性質あり、刑罰は社會侵蝕者に對する反抗作用なりと謂ふべく、此の思想を以て犯罪現象を論ずる最近の刑法學には犯罪人類學又は犯罪社會學の目ありとす。舊派の刑法學者の如きも是等の新學說に傾向するもの多きは佛國刑法の大家ガロー氏の如き獨逸のリスト氏の如き其著書を一讀して直ちに之を知るべし。然れども新學說に基き刑法學の大夏を構成せしものは極めて少く、伊國ガロファロー氏の犯罪學論の如き、其議論頗る痛快なるも未だ組織的刑法論と稱するに足らず。白耳

- 五 天壽を全うするは人の本分を盡すものなり原因事情の如何を問はず自から生命を害するは獨立自尊の旨に反する背理卑怯の行爲にして最も賤む可き所なり
- 六 敢爲活潑堅忍不屈の精神を以てするに非ざれば獨立自尊の主義を實にするを得ず人は進取確守の勇氣を缺く可らず
- 七 獨立自尊の人は一身の進退方向を他に依頼せずして自から思慮判斷するの智力を具へざる可らず
- 八 男尊女卑は野蠻の陋習なり文明の男女は同等同位互に相敬愛して各その獨立自尊を全からしむ可し
- 九 結婚は人生の重大事なれば配偶の選擇は最も慎重ならざる可らず一夫一婦終身同室相敬愛して互に獨立自尊を犯さざるは人倫の始なり

義は歐洲中の小國なれども其國民の惻發なる刑罰組織の改良上見るべきものあり。同國プリユッセル大學教授プリンス氏の新著たる『刑法學及び制定法』と題する一書の如き、新主義の理論を以て近代の刑法を評論説明し其文の流暢なるは其辯の爽快なると相合ふ。其書中刑事社會學派の本領を説きたる點、近代監獄學の價値を評論したる點、並に犯罪の民事上の効力を説明して被害賠償に關する改良方法を論じたる點の如き最近刑法學の趨勢を察するに足る者あり。吾輩は刑法を以て國民統御上萬能効ありと信せず、又監獄を以て刑罰の目的を達する萬能効ありと信せず。然れども窮乏と犯罪とは現今社會の病的現象と稱すべく、我國庫は年々四五百萬圓を投じて日々現在せる四五萬の囚徒に供給し國民の被害は更に莫大にして犯罪人の檢舉せらるる者十分の一に過ぎざるを見れば、たとひ一國の福利を積極的に増進する効無も一國の秩序を消極的に維持する刑罰制度は國權の伸張に大影響なしとして度外に附すべきものにあらざるべし。又刑罰は絕對の意義なかるべく社會救済上絕對の價値なかるべしと雖も比較的價値を認むるを得べきなり。刑法改正の問題も亦比